

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「富山市立義務教育学校 水橋学園」へ

富山市立水橋西部小学校 建学の精神「有隣」はいつまでも



本校は、明治11年に西水橋小学校として創立されました。創立当初は「有隣小学校」と呼称されていたこともあり、「有隣」の精神(徳を行う者は孤立せず、必ず共鳴者が現れる)は、以来147年間、閉校を迎える今年度まで受け継がれてきました。校歌にもこの精神が込められています。

今年度は、学校に関わる全ての人が特別な年であることを意識し、日々をくらししてきました。閉校記念行事やイベントが大小たくさん行われました。誰か(子ども、職員、地域、保護者)が閉校を意識して「やろう」と言った取組は、やがて共鳴者が現れ、全て価値あるものとなりました。まさしく「有隣」の精神を感じ続けた1年間でした。

ある行事で、本校縁の三世代が校歌を歌いました。校歌後、会場にはしばらく沈黙が流れました。言葉にできない閉校への思いを、集う者皆が噛みしめているようでした。このとき、私は、「有隣」の精神はいつまでも私たちの心の中で生き続けていくに違いないと思いました。

富山市立水橋中部小学校 「大成の心」を大切に 新たな歩みを



本校は明治6年に開校し、同8年に「立派な人物に」との願いから「大成小学校」と名付けられました。昭和41年に水橋中部小学校と改称後も、153年の長きにわたり「大成の心」を礎に歴史を刻んできました。

水橋地区の中心に位置する本校は、伝統行事「水橋橋まつり」に見守られ、温かな地域と共にありました。校内では「ファミリー活動」を通じ、学年を超えた絆や思いやりの心を育んできました。また、郷土の偉人・角川源義氏が作詞した校歌には、高い理想を掲げて「大成の道」を進む子供たちへのエールが込められています。この歌声は、閉校後も卒業生の心に響き続けることでしょう。

4月からは「義務教育学校 水橋学園」として新たな歩みを始めます。学び舎は変わりますが、育んできた「大成の心」を大切に、新しい仲間と輝かしい未来を切り拓いていくことを願っています。

富山市立水橋東部小学校 地域への誇りをもち 新たな歩みを



本校は、明治6年下砂子坂小学校として開校し、幾多の改称や改築等の変遷を経て153年の歴史に幕を下ろします。

令和7年度は、異学年交流による学び合いや人間関係づくりを中心として、教育活動を推進してきました。本校の伝統行事なわとび発表会は、子供たちが演技構成を考えつくり上げました。地域から学ぶ「水橋学」では、「田の生き物」「米作り」「店」「コミュニティバス」「保育所」「閉校記念フェスティバル」を教材として課題を探究し、地域の方々の思いや願い、生き方に触れ、地域のすてきを見付けました。地域との関わりから、子供たちは将来の地域の姿や自己の生き方を思い描くとともに、地域を誇りに感じています。

令和8年4月、本校は水橋地区の小中学校が統合し義務教育学校水橋学園として歩み出します。今後も、地域に愛着と誇りをもち、新しい仲間とともに新たな歴史と伝統をつくり上げてほしいと願っています。